

新年のごあいさつ

新

年あけましておめでとう
ございます。本年が皆さんにとって明るく希望溢れる年となりますよう心よりご祈念申し上げます。

また、昨年は町政運営に対してご理解ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、昨年3月に町長に就任し、町民の皆さんからさまざまなご意見をいただきました。なかでも多かったのは除雪に関するご意見です。生活に密接に関わる除雪について、改めて皆さんの関心の高さを実感しました。

除雪につきましては、就任後、雪対策室を設置し、4月の議会で除雪に関する予算の増額を決定いただきました。また、幹線道路の除雪基準や住宅密集地の排雪回数を見直すとともに、除雪業者も昨年度から2社多い16社にご協力いただき、本年度の除雪対策を強化しております。さらに、除雪機械の整備計画の策定を行い、除雪機の購入を進めているところです。

しかし、過去に比べて除雪業者は依然として少なく、除雪作業員が夜中から作業しても朝の通勤・通学の時間までに町内全域の除雪作業を完了させるのは難しい状況です。地域の皆さんで協力いただけることに関しては、地域と協力して除雪対策を進めさせていただきたいと思っております。

次に、子育て支援策としての「学校給食費無償化」についてです。当町は、定住するのに魅力的な住環境であるにも関わらず、若者からの注目が低い状況にあると考えています。給食費無償化をきっかけに、若い人が当町に定住していただけることを期待しています。給食費無償化については、小・中学生ともに令和5年度から実施できるよう進めております。当町の基幹産業である農業につきましては、大区画の圃場整備を推進し、今後も地域の農業を支える農業法人等の育成に取り組んでまいります。

除雪対策の強化や学校給食費の無償化などを行うには、多額の予算を要します。昨年、これまで町が行ってきた事務事業の見直しを行いました。当初想定していた件数よりは多くはない結果でしたが、今回見直しを行ったことで、今後も継続する事業についてもより一層効率的に事業を行うことができると考えています。今後も事務事業の見直しを行い、無理無駄をなくしていきたいと考えています。

住みやすさ日本一のまちづくりには皆さんの意見が必要です。今後も率直なご意見をいただければと思います。誰でも住みやすいまちになることは共通の願いであると考えています。私は皆さんからの「ここが困っている」等の意見を大切にし、改善していくことが住みやすいまちづくりに繋がると考えています。もちろんすぐに実施できないこともございますが、早期に課題解決ができるようにと心に刻むことが、より良い事業を生み出すことに繋がると考えています。

金ケ崎町長
かんじゅ
高橋 寛寿



令和5年 町勢功労表彰

町勢功労表彰は自治功労、教育功労、民生功労の3部門から5人が選ばれました。
また、農業賞に2人が選ばれ、1月5日に行われた表彰式において高橋寛寿町長から労いの言葉とともに表彰されました。

◆ 自治功労 ◆



たかはし よしいち
高橋 由一さん (76)
= 永栄下谷起 =

平成14年6月から平成17年11月まで金ケ崎町助役を務め、平成18年3月に金ケ崎町長に初当選して以来、令和4年3月まで4期16年にわたり、金ケ崎町長として職務に精励し、地方自治の振興発展に多大な貢献をされた。

◆ 教育功労 ◆



ちば ゆうえつ
千葉 祐悦さん (71)
= 西根齊藤谷地 =

平成25年12月に金ケ崎町教育委員会委員に就任し、平成26年10月から平成28年9月まで同委員長を務め、平成28年10月から令和4年9月まで2期6年、金ケ崎町教育長として職務に精励し、教育行政の振興に多大な貢献をされた。

◆ 民生功労 ◆



さとう つよし
佐藤 侃さん (78)
= 永栄後川原田 =

平成19年12月から令和4年11月まで5期15年、金ケ崎町民生委員児童委員として地域福祉の向上に尽力され、町勢発展に多大な貢献をされた。

◆ 民生功労 ◆



みやもと ゆきこ
宮本 幸子さん (70)
= 六原東町 =

平成13年12月から令和4年11月まで7期21年、金ケ崎町主任児童委員として地域福祉の向上に尽力され、町勢発展に多大な貢献をされた。

◆ 民生功労 ◆



あきざわ ちかこ
秋澤 千賀子さん (75)
= 永沢堀切後下 =

平成19年12月から令和4年11月まで5期15年、金ケ崎町民生委員児童委員として地域福祉の向上に尽力され、町勢発展に多大な貢献をされた。

◆ 農業賞 (農業経営部門) ◆



こせき つよし
小関 剛さん (55)
= 三ヶ尻沢川堤下 =

生産性の高い効率的な農業経営を目指し、地域の担い手として水稻中心に経営面積の拡大を図っている。水稻栽培においては、「金色の風」のほか、町の特産品である酒米の「亀の尾」の生産にも取り組んでおり、さらに令和3年からは地域全体の米の品質向上のためドローンを使った一斉防除に取り組んでいる。

現在は、金ケ崎町環境保全型農業推進協議会の事務局長や金ケ崎町認定農業者研鑽会理事、さらに三ヶ尻地区基盤整備事業推進委員会の役員も務め、次代を担う農業者のリーダーとして地域や仲間たちからの信頼も厚い。

また、小関氏ら担い手を中心とし、地域全体で支え合い協力しながら農業を継続していく仕組みの構築により、地域づくりや地域活性化が図られ、地域農業の維持、発展に多大な貢献をされた。

◆ 農業賞 (農民文化部門) ◆



西根甚句踊保存会
ささき じゅんこ
佐々木 順子さん (76)
= 西根下谷地 =

踊り手として伝承活動を続け、昭和63年から金ケ崎中学校の女子生徒に毎年指導を行っている。

保存会の存続が難しい時期も地域の方々や自治会等へ、先人から受け継がれてきた郷土芸能の素晴らしさを伝え続け、存続の危機を救った功績はもとより、現在も積極的に後継者育成のため、指導を続けている事は、郷土芸能の伝承の模範である。

伝統を絶やすことなく伝承活動に取り組み、地域に根差した郷土芸能の発展に寄与し、農民文化の伝承に多大な貢献をされた。

※農業賞は岩手ふるさと農業協同組合との共催事業